

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	15 - 文 - 8
-----------------	------------

平成 15 年度配分 研究成果の概要

研究名	エチオピア・ユダヤ人の文化と社会——奇跡のアリヤー(帰還)				
配分を受けた特別研究費	文化政策学部長特別研究費 740 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の 場合の分担
	文化政策学 部	国際文化学科	助教授	鈴木 元子	
共同 研究 者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀要「エチオピア・ユダヤ人の奇跡の アリヤー：ソロモン作戦」(予定)		号数	第 5 号 (平成 17 年 3 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名：		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法：		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	

注：配分を受けた翌年度の 6 月末までに提出

(研究の目的等)

私のこれまでの、ユダヤの社会・文化研究(宗教、言語、慣習など)を礎に、ユダヤ人の特徴のひとつである「ディアスポラ性」(国の滅亡以後、世界中に離散した民であること)に焦点を当てることを目的とした。そこで、具体的には、今回の特別研究において、エチオピアに永きにわたって暮らしてきたユダヤ人部族が、ユダヤ人であるというアイデンティティの故にイスラエルに帰還するという一大決心をし、それに基づき大行動を起こした「ソロモン作戦」(1991年に1万4千人がたった25時間でイスラエルに飛行機で帰還した)の経緯について研究することであった。

(研究の実施方法等)

(1)本の邦訳

平成15年4月から、英書の翻訳を少しずつすすめていった: Asher Naim, *Saving the Lost Tribe: The Rescue and Redemption of the Ethiopian Jews* (New York: Ballantine Books, 2003) [アシェル・ナウム著『失われた部族を救う:エチオピア・ユダヤ人の救出と贖い』バランティン・ブックス社] (総266ページ)。

(2)エチオピアでの現地調査と文献収集

平成15年2月下旬にエチオピアを訪れ、現地視察し、文献収集等を行った。ソロモン作戦の実施された首都アディス・アベバ、および今でもわずかに残留ユダヤ人が暮らしているゴンダールのファラシヤ村を視察、取材、文献収集、そして写真撮影をした。

(3)その他、日本で入手できる関連書物を購入し、研究を深めていった。

(得られた成果等)

(1)次号の研究紀要に論文「エチオピア・ユダヤ人の奇跡のアリヤー: ソロモン作戦」(仮題)を発表できること。

(2)翻訳が終了したこと。

(3)ユダヤ人研究から端を発して、初めてアフリカに行ったことから、色々と学問的刺激を受け、視野が大変広がったことと、それに伴い研究課題も増大したこと。